

政治研究の基礎（アメリカ）

担当：平松彩子

南山大学外国語学部

2017年度第1クォーター月曜、木曜1限

教員連絡先メールアドレス：ahirama[at]nanzan-u.ac.jp

研究室：南山キャンパスL棟8階801号室

オフィスアワー：月曜日4限（15:15-16:45）

I. 授業概要

But what is government itself, but the greatest of all reflections on human nature? If men were angels, no government would be necessary. If angels were to govern men, neither external nor internal controls on government would be necessary. In framing a government which is to be administered by men over men, the great difficulty lies in this: you must first enable the government to control the governed; and in the next place oblige it to control itself.

Publius (James Madison), *Federalist Paper* #51

建国当初からアメリカにおいては市民の自由を守ることを目的として、為政者の権力欲や政治的野心を際限なく増大させない仕組みが考察され、憲法に取り入れられてきた。上に引いた『フェデラリスト』第51編の一節に明らかなように、天使の性格を持つわけではない人間が他の人間の上に立って統治するには、政府に統治能力を付与すると同時に、政府が自らの権力を抑制する義務を課す必要があると、建国時から憲法制定者は考えていた。

この授業では、このような権力理解に基づいて世界最古の現行成文憲法を運用しているアメリカにおいて、政治学が用いてきた概念や理論、分析枠組みを学ぶ。日本とは様相の大きく異なる社会、人口構成、地理的条件や分断線を持つアメリカでは、市民の「平等」および「生命、自由、幸福の追求」の権利を可能にする政治を実現することは常に喫緊の課題であり、この解決を目的として政治学研究や政策提言が活発になされてきた。その成果の概要を学ぶことは、外国語としての英語、また外国としてのアメリカ社会を知る上で重要であるし、またアメリカ以外の国の政治分析を行う際にも、参照として示唆に富む。

なお本授業では合衆国憲法の制度そのものよりも、代表制、政党、国家といった政治学の概念に焦点を当てる。アメリカ合衆国の憲法制度の内容について学びたい者は、本授業に加えて『アメリカの政治』講義を履修することを推奨する。

II. 到達目標：本授業の履修者は、

1. アメリカの政治学研究で使われてきた概念、および政治社会問題の解決策についての知識を得る。
2. 政治学の議論および分析を学ぶことを通じて、批判的考察力を身につける。
3. 日本語文献の書評の執筆を通じて、端的かつ明確に議論を整理し表現する力を養う。
4. 英語原典資料の読解を通じて、アメリカ政治に関する英語の語彙量を増やす。

III. 授業日程概要

1. 4/6 はじめに：アメリカにおける民主主義の諸問題
2. 4/10 共和制
3. 4/13 代表制の理論
4. 4/17 選挙と投票
5. 4/20 政党 I.
6. 4/24 政党 II.
7. 4/27 国家
8. 5/1 社会運動
9. 5/8 利益団体と多元主義 (※『職業としての政治』書評締切)
10. 5/11 連邦制と地元自治
11. 5/15 ナショナリズム：統合と民主化の契機
12. 5/18 マスメディアと広報産業 (※『世論調査』書評締切)
13. 5/22 政治文化とイデオロギー (※『アメリカ政治の壁』書評締切)
14. 5/25 私的結社、企業、市場
15. 5/29 おわりに

IV. 評価方法

定期試験 (70%)、書評 (20%)、コメントシートによる授業参加度 (10%)。
ただし授業参加度は15回開講される授業のうち、13回以上コメントシートが提出された場合にのみ加算される。

V. 授業時間外の学習

各回に指定する英語文献 (5 ページ程度のテキスト) を授業前に予習してくること。また指定された文献 2 冊について、日本語で短い書評を執筆すること。

VI. 英語文献指定箇所

1. はじめに：アメリカにおける民主主義の諸問題
2. 共和制
☆ Publius (James Madison), *Federalist* #10. 1787.
3. 代表制の理論
☆ Jane Mansbridge. Excerpts from “Should Blacks Represent Blacks and Women Represent Women? A Contingent ‘Yes.’” *The Journal of Politics*. Vol. 61, No. 3 (August, 1999).
4. 選挙と投票
☆ Angus Campbell, et al. Excerpts from *The American Voter*. The University of Chicago Press. 1976.
5. 政党 I.
☆ Austin Ranney. An excerpt from “The Nature and Conditions of Party Government” in “Chapter Two: The Case for Responsible Party Government,” *Theory of Responsible Government*. The University of Illinois Press. 1953.

6. 政党 II.

☆ Cohen et al. Excerpts from *The Party Decides: Presidential Nominations Before and After Reform*. The University of Chicago Press. 2008.

7. 国家

☆ James Scott. An excerpt from “Introduction.” *Seeing Like a State: How Certain Schemes to Improve the Human Condition Have Failed*. Yale University Press. 1999.

8. 社会運動

☆ Mancur Olson. Excerpts from *Logic of Collective Action: Public Goods and the Theory of Groups*. Harvard University Press. 1971.

9. 利益団体と多元主義（※書評提出回）

10. 連邦制と地元自治

☆ Alexis de Tocqueville. “Chapter V: Necessity of Examining the Condition of the States – Part III,” in *Democracy in America*. (Translated by Henry Reeve.) The Project Gutenberg Ebook. 2013.

11. ナショナリズム：統合と民主化の契機

☆ Benedict Anderson. Excerpts from *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. Revised Edition. Verso. 2016.

12. マスメディアと広報産業（※書評提出回）

13. 政治文化とイデオロギー（※書評提出回）

14. 私的結社、企業、市場

☆ Alexis de Tocqueville, “Chapter XII: Political Associations in the United States, Chapter Summary” in *Democracy in America*. (Translated by Henry Reeve.) The Project Gutenberg Ebook. 2013.

15. おわりに

※資料は授業の前の回で紙に印刷したものを配布。Webclass 上も掲載。授業中のパワーポイントスライドは、図表や写真等の部分のみ授業後に Webclass 上で配布する。

VII. 参考文献（大学図書館 1 階の指定図書コーナーに配置）

阿部齊、久保文明著『国際社会研究 現代アメリカの政治』放送大学大学院教材

VIII. 書評課題について：アメリカ政治と政治学分析に関する次の 3 冊の文庫本のうち 2 冊について、主旨を簡潔にまとめた上で論じなさい。なお書評の長さは 800 字（400 字詰原稿用紙で数えて 2 枚）を超えてはならない。

合計 2 回のうち、1 冊目の a. は必読、2 冊目は b. ないしは c. のどちらかを選択。

- a. マックス・ウェーバー（脇圭平訳）『職業としての政治』岩波文庫（1980 年）、5 月 8 日（第 9 回授業）提出

- b. 岩本裕『世論調査とは何だろうか』岩波新書（2015年）、5月18日（第12回授業）提出
- c. 渡辺将人『アメリカ政治の壁-利益と理念の狭間で』岩波新書（2016年）、5月22日（第13回授業）提出

書評は氏名、学生番号、所属を明記のうえ、文章作成ソフトで横書きしたものをA4用紙に印刷（1枚を超える場合は両面印刷）し、各締め切り日の授業時間の冒頭に教卓に提出すること。また紙での提出とは別に、締め切り日の朝9時20分までにウェブクラス上のレポート提出機能でも送信提出すること。紙および電子媒体双方が揃った場合にのみ書評提出が完了したと認める。

- IX. オフィスアワー：オフィスアワーを設けるので、授業および課題に関する質問等がある場合は利用すること。

時間：月曜日4限（15:15-16:45、事前予約不要）。月曜4限以外を希望する場合は事前メールのこと。

場所：L棟8階801号室

- X. 欠席の取り扱いについて：コメントシートの提出が全15回開催される授業のうち10回に満たなかった場合、出席過少として成績評価はSとなる。ただし大学が公欠扱いとして認めている欠席事由（上南戦への参加、教職実習、介護体験など）の場合は、メールで教員に事前連絡をすること。

- XI. 学問上のマナーについて：提出物や試験解答は全て履修者本人が独自に作成したものでなければならない。書評課題や試験解答中に、剽窃ないしは不正行為が見つかった場合は、『南山大学学則』第34条、「南山大学学生懲戒規定」および「南山大学における試験の不正行為に対する懲戒内規」に従い厳重に処分する。学則および規定は各自で読んでおくこと。

- XII. 授業中のマナーについて

- 資料閲覧を目的とする場合を除いて、パソコンやタブレットの授業中の教室内での利用を禁じる。
- 携帯電話はマナーモードにして鞆の中へ。
- 飲み物、飴などを除いて、授業中の教室内的飲食は禁じる。